



今月のりんご園の作業

りんごの樹も五月ともなれば、新芽が萌え出てりんご園も新緑で覆われてくる。五月の末ともなれば、りんごの花が咲き乱れ、りんご園は百花爛漫の季節になる。この月はりんご園の作業も本格的になり多忙な時期になつてくる。いくら遅い人でも春耕は既に終つた事と思う。更に第一回、第二回の機械油や硫黄合剤の散布は、既に終つた事と思う。特に今年は、雪が多かつたので雪どけが遅れているから、早速耕耘を行つて畑を乾燥させる。また例年水排けの悪いところでは色々支障が生ずるものがあるから、極力排水をはかるようにつとめるべきである。

本年は、現在の予想からいくと、青森、本道共に豊作であるとの事である。折角の良き年であるから、管理に十分注意し樹勢を維持して、秋の稔りを迎えたいものである。特に例年モニリヤ病の発生のはげしいところでは、早くから防除対策を立て、モニリヤ病を絶滅するようにすることだ。次にモニリヤ病の防除法を述べてみよう。

この病氣は、芽出し当時の葉腐れより、始まりついで花腐れ、実腐れ、株腐れ、となり、りんごに大害を与えている事は、御承知の通りである。そうしてこの病原菌

は、被害部と共に、地上に落ちて菌核となり、翌春これより小さなキノコが生じこれから胞子を生じて芽出し当時の稚葉に侵入し、これから順次花腐れ、実腐れ、株腐れ、と及ぶのである。この病氣の予防法としては、結局第一次感染の源となるキノコの発生を抑える事である。早期に病原菌を根絶すると後の防除は大変楽になつてくる。しかもキノコの発生は、春先降雨が少く土が乾燥する年はすくないといわれているから、早目に耕耘を行い土壌を乾かす事である。しかし排水の悪いところでは、先に排水をはかる事が肝心であり、モニリヤのみならず紋羽病始め種々の根の障害の防止にも大変良い事である。特に春先低温多湿の年には早目に耕耘を行うと共に消石灰を反当一〇〜二〇貫位を地上に撒布する。また草生栽培地は、石灰の量を多くして撒布する事である。次に胞子が出て来て葉に附着しても菌が内部に侵入しないように、りんごの発芽の頃から、三週間ぐらゐ一週間置きに石灰硫黄合剤六〇〜八〇倍液を葉の裏に十分撒布する事だ。次に葉腐れが発生したら花腐れにならぬ内に病葉を除却し焼却する事は第二次被害の実腐れを防止するのに大変役に立つところである。更に実腐れ

防止には、薬剤撒布は効果がないから葉腐れ花腐れの多い年には人工交配を行い授精を完全にさせる事である。開花時に低温多湿の年は、りんごは一般に授精しにくいので、なお一層の事である。更にモニリヤ病菌は、授精さえ完全であれば、柱頭侵入しても被害を与えるまでにはいかないといわれている。例え自己の園で十分防除を行つても周囲に不良園のある時は、防除も役に立たない時もあるから、人工交配に依り完全に授精させる事が大切である。実腐れが出た場合は、早目に被害果を除し、株腐れになるのを防ぎ、樹勢を旺盛にして被害の軽減をはかるようにつとめるべきである。

次に害虫であるが、アブラ虫の発生が見られてくる。葉のまかない内にBHCやロテゾール等で防除を行う事である。アカダニは、五月に入つてくると越冬卵は、孵化を開始する。一般に赤ダニは、肉眼で確認が出来にくいので気がついた時には、既に葉が真赤になり手遅れの状態になるから、常に観察を十分にいたし、被害のすくない内に防除を行うべきである。

次に今年は、花芽の着生が多いといわれている。それで、早くから摘花を行い樹を弱らせない事である。

草生栽培で樹勢の弱つていいる時では、開花前一回落花後二〜三回、尿素の葉面撒布を実施すると良い。濃度は、一升当り二〇匁内外が適当と思われる。更に今年より、草生を行う場合、播種期は何時でも良いが、余り土壌の乾かぬ内に播種する事である。適種類としては、赤クロバ、白クロ

バ、また最近では、白クロバの改良種であるラデノクロバは、白クロバより草丈も高く、生草量も多くしかも丈夫である。赤クロバは、播種後三年目位で収量が急激に減ずるから播種後二〜三年目の方はそろそろ更新を図るようにすべきである。最近では禾本科のオーチャード等を混播するようになつて来た。寧ろクロバ単播より禾本科混播の方が成績が良いと思う。更に肥料作物を播種しているからと申しても窒素質肥料を制限するよりは、幾分多量目に施用するよう心掛けるべきである。

今全面草生の場合の反当播種量をかかげるとラデノクロバ、白クロバ

赤クロバ 一斤
オーチャード 二斤
混播の時はこれより幾分少なめにする。

庭園観賞樹木

山桜	10本	円	50
野桜(銀杏)	10本	円	90
吉樹ド	10本	円	80
桜	10本	円	80
梅	10本	円	80
梅栄	10本	円	80
クマリ	10本	円	60
手柳	10本	円	60
柳	10本	円	60
よ	10本	円	100
(3年生)	10本	円	100
き	10本	円	100
(2年生)	10本	円	100
よ	10本	円	100
(1年生)	10本	円	100
よ	10本	円	100
(4年生)	10本	円	100